

地域の農産品直売所「伊野いち」の取組【出雲市伊野地区】

1.取組概要

- ・伊野地区の農業の活性化策としてH26年から年2回(概ね6月、10月)の頻度で、伊野地区の農水産品直売を実施。
- ・地域の農産品や海産物、しじみなどを安価で「おすそ分け」し、地域住民による「おもてなしコーナー」を設けて地域内外の交流の場も創出。
- ・1回につき300人～400人程度の来場者があり、リピーター化する常連客も多数。
- ・出荷者も取組初期と比較して増加傾向にあり、伊野地区の恒例行事として定着している。

2.ここがポイント！

- 「伊野いちファン交流会」の開催
 - ・生産者と消費者の交流の場を設け、互いに伊野を知り、伊野の将来について考えるきっかけに。
- 伊野小学校との連携
 - ・おもてなしコーナー等の運営に伊野小学校の5、6年生が参加。郷土学習の一環として地域の良さを子どもが学ぶ機会となっている。
- 伝統食の継承
 - ・伊野地区の伝統食(しば入りチマキ)を作成する講習会を開催し大好評。伝統文化の継承に一役。

3.「伊野いち」の様子



(左)「伊野いち」の運営に参加する伊野小学校の児童。学校と地域の連携が定着し、多世代交流やふるさと教育の実践の場となっている。

(右)売り場やレジの前には、地区内外から多くの来場者が集まる。宍道湖から日本海にぬける伊野地区ならではの産品(しじみ、米、海産物等)が並ぶ。



(左)運営は伊野地区住民のボランティアによって行われている。出荷者も増加し、伊野地区のイベントとして定着している。

